

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>日本植物学会第82回大会（広島国際会議場，2018年9月14-16日）</p>
<p>演題名</p>	<p>カニクサの造精器と前葉体形成に対する植物ホルモンの効果</p>
<p>発表者</p>	<p>○大石 奈津美 1※、武田 瑞歩2※、星加 名奈美2※、柴田 恭美2、横田 孝雄2、<u>山根 久和</u>1,2、朝比奈 雅志 1,2,3 1；帝京大・院・総合理工、2；帝京大・理工・バイオ、3帝京大・先端機器分析センター （○；発表者、アンダーライン；本学教職員、研究員、※；本学の大学院生、卒研生） 【植物生理学研究室】</p>
<p>内容</p>	<p>シダ植物の一種であるカニクサ（<i>Lygodium japonicum</i>）の造精器は、胞子を暗所でGA4 メチルエステルによって処理することにより、その原糸体上に誘導される。我々はこれまでに、GA4 メチルエステルによる造精器形成とプロトネマ伸長、および光環境下における前葉体形成が、プロゲステロン類やオーキシシンによって制御される可能性を見出している。 本学会では、カニクサの造精器・前葉体形成に対する植物ホルモンや生合成・極性輸送阻害剤の効果について、光学顕微鏡を用いて検討した結果について発表した。本研究の一部は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、私学事業団特別補助「大学間連携による共同研究」による支援を受け行った。</p>
<p>関連画像</p>	